

2. あゆみ

明治22年に町村制が施行され、鶴瀬村、南畑村、水谷村の各村が誕生しました。

大正3年には、東武東上線が開通し、鶴瀬駅が開設され、これまで川越と江戸を結ぶ重要な交通輸送路として発展した新河岸川の舟運は鉄道の開通や河川改修などにより、昭和の初期に廃止となりました。

昭和31年には3村の合併により富士見村が誕生しました。富士見とは、3村のいずれからも眺望のすばらしい富士山にちなんでつけられました。このころまでは、産業といえば農業が主であり、広大な農地が広がっていました。

昭和32年に、住宅公団(現都市再生機構)鶴瀬第1団地への入居が始まり、このころから宅地開発が活発化し、人口急増の兆しがみられました。昭和39年に富士見町となり、都市化の進展に伴い、教育施設や供給処理施設などの整備が進む中、昭和47年には、県下35番目の市として富士見市が誕生しました。

その後も、昭和48年に浦和所沢バイパス(国道463・254号)が、昭和52年に土地区画整理事業に伴ってみずほ台駅が開設、昭和56年には富士見川越有料道路(国道254号バイパス)も整備され、これらを契機に富士見市のまちの表情は大きく変わっていきました。その後、針ヶ谷、勝瀬、鶴瀬等でも土地区画整理事業が進められ、平成5年には勝瀬原特定土地区画整理事業により新たにふじみ野駅が開設されました。駅周辺には商業施設や高層集合住宅が建ちならび、近年、駅周辺は市内で最も大きな変貌を遂げています。



旧庁舎 (昭和40年代撮影)



鶴瀬駅 (昭和45年頃撮影)



勝瀬原 (昭和48年1月撮影)

3. 人口

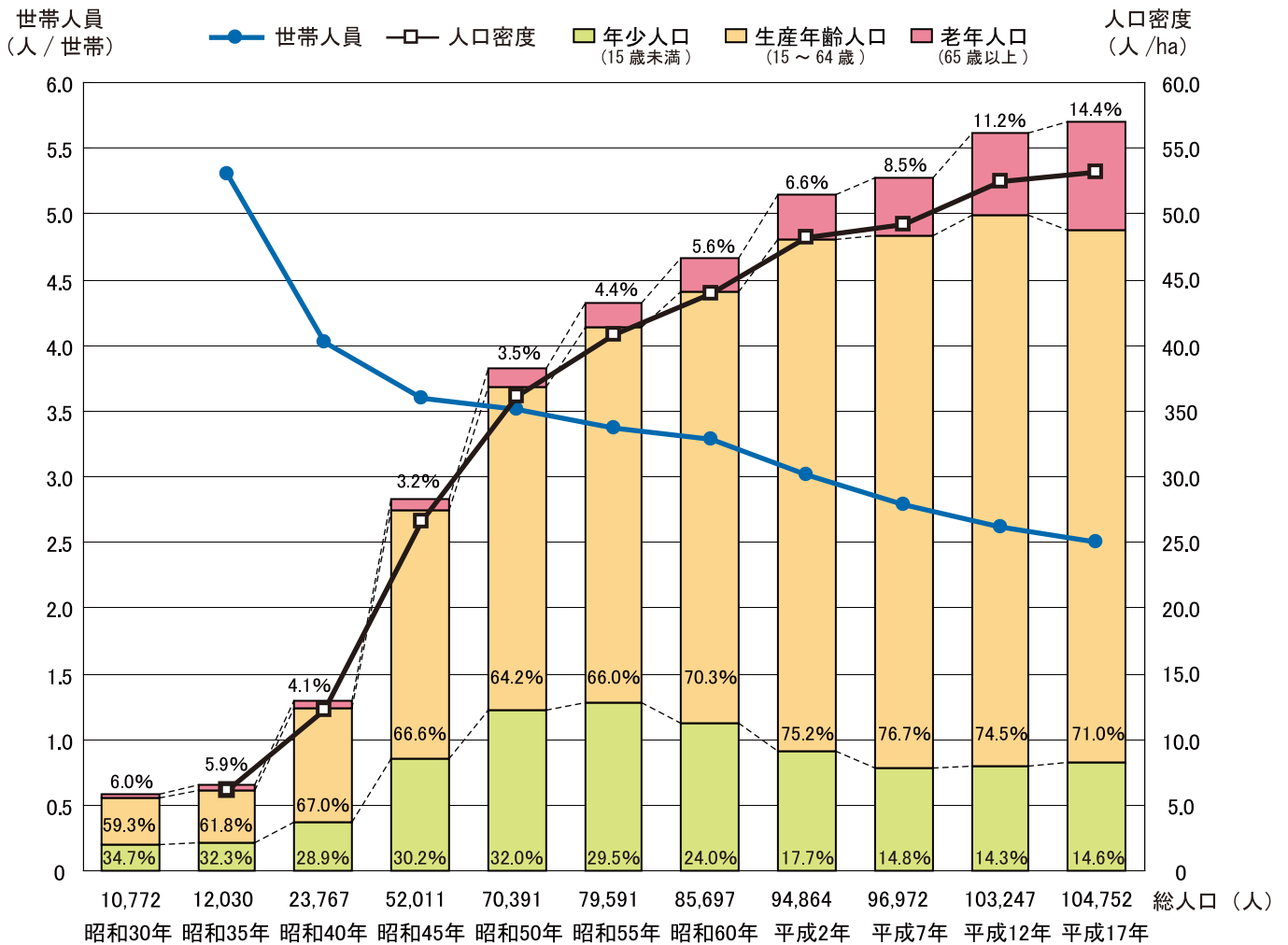
本市の人口は、昭和35年10月に12,030人でした。昭和37年には住宅公団(現都市再生機構)鶴瀬第2団地への入居が始まり、また、各地で民間の宅地開発や土地区画整理事業が進んだことから人口が急増し、平成11年には人口が10万人を越え、平成17年10月現在104,752人(国勢調査速報値)となっています。

全国的には日本の人口が減少に転じ、埼玉県内でも多くの市町村で人口の減少傾向がみられるなか、本市では微増ではありますが人口の増

加傾向が維持されています。その一方で、少子高齢化は確実に進行しており、昭和35年に高齢化率5.9%だったものが、平成17年では14.4%となっています。

人口密度も年々高くなっており、昭和35年に6.11人/haだったものが、平成17年では53.17人/haと8倍以上に高くなっています。

世帯数は、人口に比例して増加していますが、1世帯当り人口は昭和35年に5.3人であったものが、平成17年では2.5人に減少しています。



資料：国勢調査・統計ふじみ